

# 表富士

— 東海道、眺めのいい街道 —



横山華山筆 富士三保清見寺図

令和2年6月27日(土)～7月26日(日)

※新型コロナウイルス感染症対策のため会期・開館時間等を変更する場合があります。最新情報はホームページをご確認ください。  
また、企画展示室への入場者数を制限させていただいておりますので、時間に余裕をもってお越しください。

会場：静岡県富士山世界遺産センター 企画展示室

開館時間：[6月] 9時～17時 [7月] 9時～18時 (最終入館は閉館の30分前)

休館日：毎月第三火曜日 (会期中7月21日〈火〉)

常設展観覧料：一般300円 70歳以上・大学生等以下・障がい者 無料 (証明書をご提示ください)

※今回の企画展は常設展観覧料でご覧いただけます。



# 表富士 — 東海道、眺めのいい街道 —

聖なる火山—富士。放恣なまでに荒ぶる忿怒の相貌をもつ一方で、季節を忘れたかのように白妙の衣をまとい優雅に稜線を流す麗しい姿は、古くより絵筆にとどめられてきました。江戸時代に入り、將軍家御用絵師の狩野探幽（1602～1674）が富士山絵画の定型を編み出すと、富士山は山水画一般から自立し、源氏物語絵や洛中洛外図と同様の独立した絵画ジャンルとしての地位を獲得します。江戸時代中～後期になると、富士山は独自の文化体系を備えた新しい“首都”江戸の標徴とみなされるようになり、諸派が角逐した画壇の活況とともに、絵画作品を頻繁に飾るようになります。

そのようななか、江戸を起点に諸街道が整備され、東西の往来がより頻繁になったこの時代には、実際に目にした風景をときに形而にしたがい、ときに心象に応じて再現した〈真景図〉が描かれるようになり、富士山もその主要なモチーフとしてえられます。それらのいくつかは浮世絵版画にも取り入れられ流布・“商品化”し、富士山絵画の新しい定型を形成するとともに、人々の景観認識を規定していきます。

センターの收藏品・寄託品からなる本展覧会では、富士山を描いた真景図や浮世絵版画のうち、駿河国の東海道から望んだ作品を中心に展覧し、真景図に採用された構図が定型化し、江戸時代のツーリズムの昂まりのなか“表富士”として親しまれていった過程を通覧します。

現在の風景とも対照しながら、富士山を愛してやまなかった江戸時代の人々の視覚を追体験いただければ幸いです。

## 【主な展示作品】 ※会期中一部展示替えあり



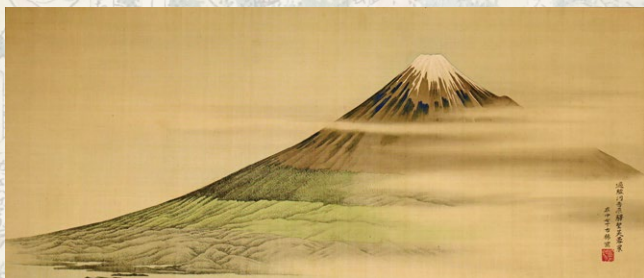
谷文晁筆 富嶽遠望図



森徹山筆 原駅望富嶽図



洲上旭江筆 薩埵嶺縮写図



原在中筆 過吉原駅望芙蓉景図



歌川広重画 東海道五拾三次之内（保永堂版）吉原



## 静岡県富士山世界遺産センター

### ＜ご利用案内＞

開館時間 9:00～17:00（7.8月は9:00～18:00）※最終入館は閉館の30分前

休館日 毎月第三火曜日

常設展示観覧料 一般 300円

※70歳以上・大学生等以下・障がい者は無料（証明書をご提示ください）

※今回の企画展は常設展観覧料でご覧いただけます。

### ＜お問い合わせ＞

静岡県富士山世界遺産センター

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町 5-12

TEL: 0544-21-3776 FAX: 0544-23-6800

### ＜アクセス＞

JR 身延線富士宮駅から徒歩 8分

新東名高速道路新富士ICから約 10分

東名高速道路富士ICから約 15分



<https://mtfuji-whc.jp/>